

# トシボのころ

第十六号 二〇一三年五月号

配信 プランディング委員会 / 発行 開発本部広報課

メーカートシボの理想とは、こんなやりとりができることではないでしょうか？

4月3日、とある離島のお店から電話が入ります。「入学式前日の4月5日に、島の中学の制服一揃い届けてくれる？サイズは上が3L、下が4Lだけど手脚がやたら長いから別

寸になるわね…。島に新しく越して来たばかりの家族なので連絡遅くなったけど、何とかならないかしら？」

それを受けたトシボの社員は、「はい、わかりました。ちょっと待ってくださいね、画面で確認しますから…。はい、確認しました。今から指図

切って明日作り、夕方出荷なので5日の午後には間違いなくお届けできます。ご注文ありがとうございます！と淡々と笑みさえ浮かべて応える。

最大負荷をあらかじめ想定し、そのために普段から様々な周辺分野ま

で研究し、仕組みを練り上げ、その時に備える…。むずかしいことを、いとも簡単にやっつけてしまうすごい仕組みのあるトシボの姿。

今回はそんなトシボの理想に向けてシステムを作り上げてきた情報システムと物流のエキスパート、松高本部長に寄稿いただきました。

## 裏方のこころ

### 納品とシステム

物流本部長  
松高 勇広

トシボの納期はお客様の信頼の拠りどころです。生産部が納期に間に合わせるため必死の思いで作った商品を間違いなく届けるためには、最後の砦である物流とそれをサポートするシステムがなければ、年間40万個に及ぶ出荷はとて無理です。

しかし、大量の出荷をこなすメーカーの必死の思いは、お客様には関係ありません。大切な子供のために購入した一着が納期どおりにきれいな姿で届けば良いのです。

おおよわらわで大量発送をこなす一方で、冷静に考え、たった一人のお客様にきれいな商品を約束の期日にお届けしたいと考え取り組んでいます。

学生服業界の特性上、早めに製造・備蓄し、入学式前に一気に納品しますが、このように変動性が高い業務は、仕組みでカバーしなければ、人海戦術だけでは限界があります。物流システムには倉庫管理、商品の入庫・保管・出庫・配送管理・加工等がありますが、その中で、バーコードを使った業務改善例を紹介します。

平成3年11月に、中・長期ビジョンに即したシステム開発の検討を行うことになり、SDP(システム開発プロジェクト)委員会を立ち上げました。

その中には当然バーコード利用の検討も含まれ、平成6年8月

より本格的にコード体系の勉強、業界動向の調査を開始しました。

当時は、民間でようやくQR(※1)推進協議会が発足し、日本アパレル産業協会でもQR実現の方法としてJANコードを採用することを決定した時期でした。

そのような流れの中、平成8年1月に、社外向けはソースマーケティング(※2)が重要な要因でもあ

なりました。

3年後には業務使用が出来るつもりでしたが、思いのほか時間がかかり、12年経過した平成21年6月に、出荷業務でバーコードを利用する検討を行い、12月に「トータルピッキングシステムTTPS」稼動となりました。

ハンディターミナルでバーコードを読み取り、倉出しチェックや明細確認が単独で簡単に出来る、ミスも無くな

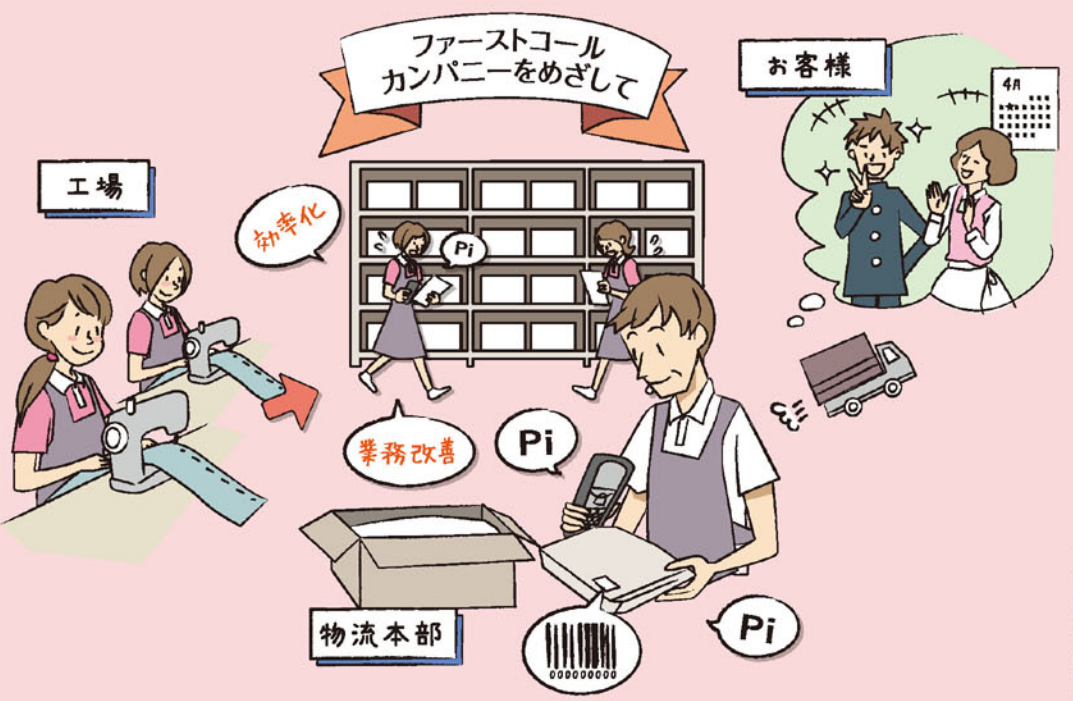
ったことは皆さんもご存知の通りです。

トータルピッキング処理では、倉出表に印字されているバーコードをハンディターミナルで読み取り内容を特定し、その後、実際に倉出しされた商品のバーコードを同様に読み取りサーバーで比較照合します。

ケースピッキング処理では、入日記(ケース明細表)に印字されているバーコードをハンディターミナルで読み取り内容を特定し、その後、仕分された商品のバーコードを同様に読み取りサーバーで比較照合するわけです。

数人を要した業務が一人で出来るようになり、倉出表や入日記に存在しない商品や不足があった場合には即座に確認出来、作業効率は格段に向上しました。

バーコードを使用すればミス



り「JANコード」とし、社内向けは「JANコード及びCODE 39」を主として使用することを決定しました。

同年6月には商品ラベルにバーコードを付けることを決定し、同年11月に流通システム開発センターへJAN企業コードを登録(現在では14コード登録)し、平成9年4月よりスクール関連、同年12月よりスポーツ関連の商品タグにバーコードが付くように

※1: QRクイックレスポンスの略。

※2: ソースマーケティング(source marketing)メーカーなどが生産、出荷段階で商品包装や容器に商品コードを印刷すること。